

高齢者の立場体験

那覇バス乗り場施設検証

【那覇】市泉崎の那覇バスターミナルのバリアフリー状況を検証しようと、県内4社のバス会社社員や市職員ら約30人が10日、バリアフリー教室(主催・内閣府沖縄総合事務局)に参加した。

高齢者の関節の曲がりにくさや聴覚の衰えを体感できる疑似体験セットなどを身に付け、県立図書館からターミナルのバスに乗るまでの障害物を検証した。

視野狭窄しやんさうを体験できる特殊眼鏡を掛けた市職員の小西啓仁さん(40)は「エレベーターの開閉ボタンやバスの行き先表示が見えにくいなど、普段は分からない気がきががあった」と話した。

講師を務めたNPO法人バリアフリーネットワーク会議の親川修代表は、障がいや高齢化によって文字の見え方



アイマスクをしてバリアフリーを検証する参加者=10日、那覇市泉崎・那覇バスターミナル

が違つことや、障がい者が日常で直面する困つた事例を紹介。公共交通機関の拠点であるバスターミナルと沖縄都市モノレール(ゆいレール)の間の動線に配慮が欠けていることなどを指摘し、「大事なのは高齢者や障がい者がどういふときに困るのか想像できるかどうか。ちょっとした視点の違いで理解し合える」と参加者に語り掛けた。